

NOP NEWS

2019年

24号

ニュー・オペラ・プロダクション

〒168-0064 東京都杉並区永福 3-20-3 TEL : 03-3328-0817 FAX : 03-3328-0655
e-mail newopera@jcom.home.ne.jp URL http://newopera.jp

明けまして、おめでとうございます。

前号にも書きましたように、元旦で私は満88歳、米寿。よく、まあ、ここまで大病もせず、やりたいことをやって生きて来られたものだ、と、神様、仏様、周りの皆々様に感謝せずにはいられません。

しかし、日本ばかりでなく、世界的に機械文明が進化し、それに頼る人類は、どんどん人間性を失い、退化しつつあるように思えてなりません。政界、官界、財界トップの腐敗が深刻化しているのに、多くの人々がラインだ、フェイスブックだ、AIだ、4K、5Kだ、とスマホの小さなガラス板を撫でまわすのに夢中で、周りが全く見えなくなって来ています。他人が、どんなに迷惑しようが、不愉快に思おうが、お構いなし。まるで、ちっぽけな機械の虜になっている。私は今更ながら、小学校時代に見た映画「モダンタイムス」を思い出し、チャップリンはすごい先見の明のある名優だった、と感心しています。彼はいち早く、機械文明の進歩が人間から温かい心、人間性を奪い、金儲け一点張りの大企業の道具になり下がるって行くことに警鐘を鳴らしていたのです。

芸術はすべて、それに接する人の心を豊かにするもので、殊に舞台芸術は人の想像力を刺激し豊かにし、そこから、他人への思い遣りも生み出されます。特に、言葉ばかりでなく音楽によって、国境も人類の壁も乗り越え多くの人に感動を与え得るオペラを、より広め、失われつつある人間性を少しでも取り戻す、お役に立って行きたいと、残り少ない人生を、もうひと頑張りするつもりですので、本年も皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

ニュー・オペラ・プロダクション代表 杉 理 一

和歌山市民オペラ協会「末摘花」3回目公演大成功！

私がこの世に産み落としたオペラ「死神」「鳴神」「耳なし芳一」「末摘花」の内、最初の三作品はNHK在職中のもので、「末摘花」は定年退職後、立ち上げたニュー・オペラ・プロダクションの第11回公演として初演、三菱信託音楽賞奨励賞を受賞しました。

「末摘花」はプロダクション付属の杉オペラ研究

所の研究生が女性ばかりだったので、男性歌手の助演を頼まずに上演出来るオペラを作ろうと思い、たまたま、台詞授業のテキストとして取り上げた、この原作戯曲「しんしゃく源氏物語」を発見したのです。

女子高の校長先生で演劇部部长を兼任していた榊原政常氏が女性ばかりの出演する戯曲を書いて

上演、それが全国各地の高校演劇祭等でも評判になっていると知り、新進作曲家、寺嶋陸也氏に作曲を依頼して出来上がった作品です。

平安時代のこと、没落貴族の娘で垂れた鼻の先が赤く、紅花、別名「末摘花」と渾名された女性が、気まぐれな光源氏と過ごした愛の思い出が忘れられず、流罪で明石に去った源氏が帰京して再来するのをひたすら待ちわびる。生活



成金の叔母（久保美雪）が末摘花（井谷有紀）を嘲笑う

は益々苦しくなり、源氏を見たい、会いたい一心の奥女中達も次々と去り、源氏が許されて京に戻っても、依然、音沙汰なしなので、末摘花は遂には年老いた乳母と二人きりになってしまう。その時、何の風の吹き回しか、源氏が突然、門先に訪れて来ると、一旦、去った人々、末摘花を馬鹿にしていた叔母までもが大慌てで駆け戻ってくるといった、人心の機微をついた笑いあり、涙あり、最後は感動に心を揺すぶられる作品なのです。

このオペラの東京公演を見た和歌山市民オペラ協会会長の多田佳世子さんが、音楽の素晴らしさは勿論のこと、物語の面白さと、平安時代のお話で登場人物が京都、大阪の人ゆえ、話す言葉も京都弁、大阪弁であることにも着目され、是非、和歌山で、地元の歌手を起用して上演して欲しい、との要請を受け、2011年に和歌山市民オペラ協会と和歌山市芸術創造発信事業フェスティバル実行委員会との主催により和歌山市民会館小ホールで上演。地元の方に大好評で、二年後の2013年に再演、更に今回の再々演となったのです。

キャストは若干、変わりましたが、この三回も同じ演目を演じたことで、歌手達の内容の掘

り下げは見事に進んで、より役柄の心情を表現出来るようになり、8月19日の和歌山市民会館小ホールでの満席のお客様は、時に笑い、時に拍手大喝采、終わりには涙する姿を見て、私も嬉し涙がこみあげて来ました。

その完成度は、東京でのオペラ界一線の歌手達の歌唱演技に勝るとも劣らぬ出来で、私がNHK現役のプロデューサーだったら、このまま全国放送の波に乗せられる程のレベルに達したことを大変嬉しく思ったものです。そして、改めて、この作品を三回も取り上げて下さった和歌山市民オペラ協会会長の多田さんに心からのお礼を申し上げた次第です。



末摘花（井谷有紀）と乳母（加藤紀久代）

オフィス・アプローズ公演「ラ・ボエーム」字幕監修

一昨年の2017年、私に「夕鶴」の演出を依頼して来た砂川稔さん主宰のオフィス・アプローズから、昨年9月9日に同じ曳舟文化センターで多少の動きをつけた演奏会スタイル「ラ・ボエーム」を上演するので、字幕監修をして欲しい、と依頼されたので、喜んで引き受けました。

公演は無事、成功裡に終り、「夕鶴」のつうを演じた稲見里恵さんが今回も制作として駆けずり回りながら、ミミを見事に演じましたが、演出には若

干、問題があったように思いました。普通のオペラの上演は、セット、照明、演技の助けがあるので、歌手は音楽の力を借りて、観客を劇の世界に引きずり込むことがより容易になりますが、演奏会スタイルに近ければ近い程、歌手の表現力で、それをカバーしなければなりません。その意味で、今回はいくつかの場面で、演出も十分でなく、聴衆を劇の世界に引き込んでゆくには至らなかった部分が散見されたのが残念でした。



ミミ（稲見里恵）とロドルフォ（岡本泰寛）



クリスマスで賑わうパリの街角

静岡グランシップ 「音楽の広場」大音楽祭の 字幕監修6回目

毎夏、8月初旬に開かれるスケールの大きな、このコンサートで歌われるオペラのアリアや重唱曲、合唱曲等の字幕監修を2013年以来、毎回、NHK時代の同僚、渡壁輝君から依頼されていて、昨年の8月5日で6回目です。今回は新進のソプラノ、伊藤晴さんの「私のお父さん」、テノールの笛田博昭さんの「衣裳を着けろ」「グラナダ」、お二人のサルトーリ作曲「あなたと旅立とう」、そして、「タンホイザー」からの「巡礼の合唱」が広上淳一さん指揮する300人の大オーケストラ、300人の大合唱と共に演唱、演奏され、会場は興奮の坩堝と化しました。



「グランシップ音楽の広場2018」ちらし

NOPオペラ・ビデオ鑑賞会講座 第14シリーズ準備中

2012年に第1シリーズを始めたNOPオペラ・ビデオ鑑賞会講座は春秋各シリーズ4回の講座は昨年秋の第13回シリーズで、計52回の講座を終え、今春は第14シリーズを開催する予定です。第12シリーズ迄は東京文化会館の協力が得られ、会場確保に協力してもらえましたが、東京文化会館が公益財団法人になり、サービス奉仕系の窓口が営業推進係に変わった途端、文化会館の営業利益に資さない文化事業には特別の協力が得られなくなり、会場確保が大変難しくなりました。

そのような困難を乗り越え、講座を続けようかどうしようか、迷いましたが、この講座を喜んで下さる会員の方々の強いご要望に応えるためにも、私のオペラの魅力をお伝えし、少しでも多くの方の心を豊かにすることが出来るように、との思いを貫くためにも、もう一頑張りしてみることにして、会員皆様からのアンケートを実施した結果、新

春、5月頃に次のようなプログラムで、第14シリーズを開催することにしました。

ご希望の方は是非、ご応募、ご参加下さい。詳しい日程は会場申し込みが3か月前にしか決定出来ませんので、取り敢えず、予定のラインナップだけをご紹介致します。

- ① 来日名歌手達の名唱集、オペラ名場面集 (NHKイタリア歌劇公演他)
- ② 1988年ザルツブルク音楽祭「ドン・カルロ」カラヤン指揮、カレラス、ダミーコ他
- ③ 1990年、市民オペラ発祥の地 藤沢市「ファウスト」 錦織健、宇佐美瑠璃、工藤博、塩田美奈子他
- ④ 1982年ウィーン・フォルクスオパー来日公演 楽しいオペレッタの傑作「ウィーン気質」

横浜市青葉区 オペラを楽しむ会講座も好評 新年も引き続き

青葉区オペラを楽しむ会からのご依頼を受けて始めた映像付き講座、一昨年は1月、7月、12月に各2回だったのが昨年は1月、5月、7月、10月、12月に各2回と増え、多くの方に喜んでいただくことが出来ました。そして、新年も引き続き、とのご依頼を受けましたので、何とか、ご期待に応えられるよう、頑張るつもりです。

愛用の天体望遠鏡を四国にある天体望遠鏡博物館に寄贈

私は4歳の時、母を結核で亡くし、その後、屢々、夜空にきらめく星を見上げては、今は、その星の一つとなった母が、いとしげに私を見下ろしているような錯覚を抱き続けていました。そして、小学校へ入った頃から、私は父に星座について教えられ、星座に纏わるギリシャ神話も聞かされました。父の一高時代からの親友でギリシャ文学者として有名な呉茂一さんの著書「ギリシャ神話」を読み、一層、星への興味が深まりました。

学習院大学政治学科を卒業の頃、私は、いつしか音楽の神ミューズの魅力に取りつかれ、当時、多く上演されていた外国の音楽映画を見に通ったこともあって、戦後、映画の製作を再開したばかりの日活映画会社に入社しました。しかし、入社したのと同じ頃から、テ



60年前の天体望遠鏡と私

美しい日本の山野で 憩いのひとときを

人間誰でもが、そうかも知れませんが、私は、この歳に至って、幼児が可愛くてなくなりました。特に小学校に入る前の、親の躰の良し悪しがはっきり現れたり、学校の先生の教育の良し悪しや他の子供からの影響を受ける前の幼児のあどけなさに、心を惹かれ、我知らず微笑んでしまいます。それは今の日本の都市のコンクリートや鉄筋で作られた建設物に覆われた殺伐たる大都会の風景より、人影も少ない緑や紅葉に覆われた山野の風景に陶然とする気持ちに似ているように思えます。

加齢により、能率が落ち、次から次へと押し寄せる

レビの影響で、映画界が見る見る衰退するようになり、なりふり構わずアクションもの、肉体ものに力点を置くようになったので、私は絶望の淵に立たされました。その時、幸運にも総合テレビだけだったNHKが教育テレビ・チャンネルを増やすので、臨時に中途採用の職員を募集、即、その試験を受けて転職することが出来たのです。その3年半いた日活の退職金が約3万円で、今迄、買いたくても買えなかった、思い出に残るものを、と考え、天体望遠鏡を買うことにしました。

NHKに入った翌年、イタリア歌劇公演の裏方を務めたのをきっかけに音楽部に配属になり、超多忙な毎日を送ることになり、夜半、疲れ果てて帰宅すると、そのままベッドに倒れ込む有様で、天体望遠鏡をのぞく時間がとれなくなって来ました。それに、悲しいことに東京の空が次第に曇りっぱなしのように鮮明さを失い、望みの星を見つけるのも、星の運行を追うのも難しくなり、更に、最近は高齢による視力の衰えもあり、遂に手放すことにしたのです。

我が家のルーツは愛媛県東予市、博物館が隣の香川県にあるとなれば親しみも感じますし、四国なら、まだ、東京とは違って、夜空にキラメク美しい星々を眺めることも出来るでしょうし、この思い出深い望遠鏡自身もきっと喜んでくれると思います。この望遠鏡を覗いて、星々をご覧下さる皆様のお幸せを心から願っています。

※ 望遠鏡寄贈時、「星と天体望遠鏡に纏わる思い出を」と博物館から求められて、提出した文章です。



権現山で

仕事の処理に疲れが溜まってくると、ふと、日常から離れ、大自然の懷で、のんびりする息抜きの時間が恋しくなります。そんなわけで、去年は5月に日光、鬼怒川へ、10月に秋田、酒田へ、更に近場の秦野の権現山へ家内さわと小旅行を楽しみました。